

その他

福祉施設と学生の商品共同開発プロジェクト

活動場所：中京区、東山区

活動時期：平成 28 年 5 月～

発表団体

京都女子大学 福祉施設との共同商品開発
デザインチーム（まごころプロジェクト）



連携メンバー

社会福祉法人白百合会

活動内容

就労継続支援 B 型事業所では、障がいにより企業などに就職する事が困難な方に、就労の機会等を通じ、生産活動にかかる知識や能力の向上を支援しており、多くの事業所において嗜好を凝らした商品づくりが行われている。一方、これらの商品は、バザーなど福祉支援の市場に販路が限られることもあり、デザイン等商品企画が一般市場と合致しにくい現状がある。社会福祉法人白百合会が運営するリ・ブラン中京では、約 20 名の障がいを持つ通所者が手刺繍や手織りの商品製造をおこなっている。高い手作業技術の商品をもっと多くの人に届けたいとの思いから、平成 28 年 5 月より本学内に福祉施設と学生との共同商品開発デザインチーム（まごころプロジェクト）を立ち上げた。施設が得意とする手作業技術を活かした商品開発と販売を行い、福祉商品の周知と販路の拡大を目指している。

取組の成果・活動で工夫した点

学生メンバーは、最初に施設の方々の日常業務を経験し、信頼関係を深めながら商品開発を進めていく。実際に同じ作業を経験することによって、いかに丁寧な商品づくりを行っているかを知るとともに、様々な障がいの中でそれぞれの方が得意とする技術を把握することにより、技術を活かした商品デザインや製造工程の提案を行ってきた。例えば、施設が製造する「花ふきん」商品は、晒（さらし）木綿の布地に緻密な手刺繍が商品の全面に施されていたが、布地にあらかじめ染料スタンプによる模様を施すことによって、デザイン性を落とすことなく手刺繍面積を減らし作業効率化を図るとともに、これまで刺繍作業に従事していない通所者もスタンプ作業に参加してもらえよう開発を行った。また、紋様には京都モチーフを取り入れ、商品名を「京めぐり花ふきん」とし、地域に根差した商品の販売を行った。

連携メンバー・役割

社会福祉法人白百合会	福祉施設で行われている商品製作の技術提供および共同開発
------------	-----------------------------

今後の課題・目標

◆今後の課題

施設では商品製造の他にも日常的に様々な企業の下請け業務があり、授業の合間をぬって施設を訪問する学生との間での時間調整が難しく、施設の方々と学生がともに商品づくりを行う時間が限られていた。そのため、多くは施設と大学内に別れた作業となり、互いの意見交換や商品のブラッシュアップをスムーズにおこなう仕組みづくりが課題となっている。また、商品販売においては、平成 28 年 10 月に大阪で開催されたハンドメイドマーケットに参加、11 月には本学学園祭での販売、平成 29 年 4 月と 7 月には店舗の一角にてイベント販売を行い、共同開発商品の反応調査を行ってきたが、商品の販売定着化と販路拡大に向けて販売機会を増やすことが必要と考えている。

◆目標

福祉商品のデザイン性を高めることにより価格を引き上げ、販売を実現することによって障がいのある方の賃金向上も期待されることから、販売機会を多く設けつつ、SNS を活用した情報提供により、多くの世代の方々に福祉商品の技術の高さを知ってもらい購入につなげていくことを目標としている。



関連 WEB サイト：社会福祉法人白百合会：<http://kyoto-shirayurikai.com/>
京都女子大学 まごころプロジェクト twitter：https://twitter.com/magokoro_lily
京都女子大学 まごころプロジェクト Instagram：https://www.instagram.com/magokoro_lily/